＜2023 年度　自己評価チェック　自園の強み、弱み＞

**強み**

・乳幼児期の教育及び保育は、人格形成の基礎を培う重要なものであること、生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われること、等の理解ができている。
・乳幼児期の教育及び保育は、子どもの最善の利益を考慮してすすめることを理解できている、また家庭や地域での生活を含め子どもの生活全体が豊かなものとなるように努めている。
・子ども一人一人が、安心感と信頼感を持っていろいろな活動に取り組む体験を積み重ねられるよう、配慮している。また、一人一人の生命の保持が図られ、安定した情緒の下で、自己を十分に発揮する体験ができるように、心がけている。
・子どもの主体的な活動を促し、一人ひとりが意欲を持って遊べるような援助を心掛けている。
・子ども一人ひとりの　特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した援助を行うように努めている。
・保護者と共に子どもを心身共に健やかに育むよう、努めている。
・一日の生活の連続性やリズムの多様性に配慮して、保育を展開している。
・一人ひとりの子どもの生理的欲求が十分に満たされるよう配慮している。
・登園時の子どもの健康観察を行っている。
・いつでも安心して休息できる雰囲気やスペースを、保育室をはじめ園に確保している。
・子どもとの温かなやりとりやスキンシップを常に心がけ、分かりやすい温かな言葉でおだやかに話しかけている。
・子どもが不安になった時にいつでも受け止められるよう、一人ひとりを視野に入れている。
・「だめ」「いけません」など、制止する言葉を不必要に用いないようにしている。
・「できない」「やって」「いや」などと言ってくるとき、その都度気持ちを受けとめて対応している。
・登園時、泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ってしまうことがないようにしたり、子どもの状況に応じて抱いたり、やさしく声を掛けたりしている。
・身長体重などの定期的な計測や健康診断などの結果から、子どもの発育状況を把握して、日常の保育に生かしている。
・健康診断の結果を、子どもに関係する他の職員と共有している。
・疾患のある子どもに対して、園医やかかりつけ医からの指示に基づいて対応したり、与薬を要請された場合、留意事項の確認をしたりしている。
・家庭では十分に睡眠をとるなど、健康な生活リズムを身に付けるよう、保護者との連携に努めている。
・子どもが活動しやすいように、その都度換気や温度・湿度に配慮している。
・衣服の着脱や食事などについて、こども一人でできるように見守りながら援助している。
・食べ物を残したり偏食したりする時、過度に叱ることがないように心掛けている。
・自分自身が「いただきます」「ごちそうさま」と感謝の気持ちを持ち食事をしたり、食材や調理する人への感謝の気持ちが育つよう心掛けている。
・食物アレルギーのある子どもに対して、園医やかかりつけ医と連携して、除去食を取り入れるなどの配慮をしたり、体調に応じて、食事の量を調節する等の配慮をしている。

・障害のある子どもも、ない子どもも、互いの良さを感じとるように保育の配慮をしている。
・子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度を身につけ、新たな能力を獲得していく過程であることを理解している。
・発達過程区分は、同年齢の均一的な発達の基準ではなく、一人ひとりの子どもの発達過程としてとらえている。
・子どもの人権や一人ひとりの個人差を尊重して保育している。
・子どもは様々な環境との相互作用により発達していくことを、理解している。
・子どもが興味や関心を持ったものに対して、自分から関わろうとしている姿を、認めたり励ましたりしている。
・馴染みにくい子どもに対しても、一人ひとりに応じた適切な援助及び環境構成を行っている。
・保育内容「健康」については、どの項目も全員が意識できている。
・怪我をしないように安全に生活する方法を身に付け、自分の体を大切にしようとする気持ちを育てている。
・保育内容「人間関係」の子どもが自分で考えたり、自分でできるよう見守る等の関わりはどの保育者も意識できている傾向にある。
・子どもが、自然を観察したり触れたりするなかで、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気づくよう援助したり、「どうして」「なぜ」と言った疑問に対して、一緒に考えたり調べたりしている。
・保育内容「言葉」については、どの項目も意識できている職員が多い。
・歌ったり、踊ったりして、表現の楽しさに気づくよう、援助している。
・いろいろな素材に触れ、親しみ、イメージを豊かに持てるよう、配慮している。
・一人ひとりの子どもの表現の過程を大切にし、自己表現を楽しめるよう心掛けている。
・乳児期の保育に関する配慮事項や、満 1 歳以上から満 3 歳未満児の保育に関する配慮事項について、意識できている職員が多い。
・子どもの個人記録などは、個人情報保護法や守秘義務に基づいて管理している。
・その日にあった出来事や気になる子どもの様子などを、他の職員と共有している。
・自分の保育について、園長などからの感想や意見、アドバイスを、感情的にならずに謙虚に受け止めている。
・保護者からの相談内容などを、園全体で受け止めようとしている。
・送迎の際に、保護者と言葉を交わしたり、連絡帳で情報を交換したりするようにしている。
・子どもの体調が良くない時などに、保護者に連絡する際、その内容が相手にどう伝わるかを考えている。
・一人一人の子どもについて、虐待を見抜くことができるように配慮している。

**弱み　　＊全員が「いいえ」と答えたもの**

・幼稚園、保育所、認定こども園に関する法令を読み、その内容を理解していますか。
・環境を通して教育及び保育を行うために、重視しなければならない事項について説明できますか。
・特別支援教育、障碍児保育などに関する研修に、他のテーマの研究と同じように自ら進んで参加していますか。

・教育・医療機関などの専門機関から、子どもの障害について必要に応じて助言を受けていますか。
・より楽しく遊ぶためにはきまりを守ることが必要であることを、子どもたちが話し合う機会を設けていますか。
・外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つような機会を作ったり、外国の旗をみたり、かいたり、飾ったりすることによって、いろいろな国に興味・関心がもてるように工夫していますか。
・伝統的な地域の行事に参加する機会を作っていますか。
・地域の公共交通機関を利用する等、近隣の生活に興味を持てるように配慮していますか。
・子どもが心を動かすような活動や場面などを提供し、表現活動を楽しむようにしていますか。
・感じたことや考えたこと等を、音や動きで表現できるよう、保育の工夫をしていますか。
・歌を歌うだけでなく、その歌詞の意味について考えたりする機会をつくっていますか。
・楽器をつくって演奏するなど、子ども自ら製作したものを生かして遊べるよう工夫していますか。
・お話をもとに様々に演じるなど、一つの教材で幅広く表現活動ができるよう工夫していますか。
・子どもの健康状態の急変に対応できるよう、日頃から園医やかかりつけ医、専門医などと連携が取れていますか。
・長期的な見通しをもった指導計画を立て、職員で共有していますか。
・満３歳未満児については、入園までの個々の生育歴などを踏まえ、個別的に指導計画を作成していますか。
・地域の子どもについてのニーズを、把握しようと努めていますか。
・小学校教育との円滑な接続（連携）のために、どのような配慮をしているのか、説明できますか。